

**早生カンキツ「みはや」の高品質果実安定生産にはシートマルチ栽培が有効である**

「みはや」では、透湿性シートで8月上旬から被覆して水分ストレスを付与することで、12月には糖度 13 以上、クエン酸濃度 1%以下の高品質果実を安定生産できる。

農業研究センター果樹研究所常緑果樹研究室 (担当者: 相川博志・北村光康)

**研究のねらい**

「みはや」は、果皮が鮮やかな赤橙色で外観が美しく、糖度が高くて酸味が少なく、食味の良い品種であるが、園地条件や気象条件により品質が安定せず、その特性を十分に発揮できないことがある。

そこで、温州ミカンの高品質生産技術であるシートマルチ栽培が「みはや」の果実品質に及ぼす影響を明らかにし、高品質果実を安定的に生産する技術を開発する。

**研究の成果**

1. 8月上旬からシートマルチ栽培をした果実は、露地(無マルチ)栽培のものに比べ、常に糖度が高く、12月中旬には 13 以上となる(図 1, 表 1)。
2. クエン酸濃度は、シートマルチの有無に関係なく、12月には 1%以下となる(図 1, 表 1)。
3. シートマルチ栽培の果実は、露地栽培より肥大量がやや緩慢である(図 2, 表 2)。

**普及上の留意点**

1. 本成果は、所内の「みはや」に透湿性シートを8月上旬から被覆した結果であるが、土壌が深く水分ストレスが掛かりにくい園では、糖度が上がりにくいことから、早めの被覆を行い、水分ストレスが付与されるよう留意する。
2. シートマルチ栽培をするとやや小玉果になるので、果実の初期肥大を促進するため、粗摘果を7月上旬に実施し、内成り・裾成り果実を中心に摘果する。また、着果が多い場合は外成りの直果も同時に摘果する。

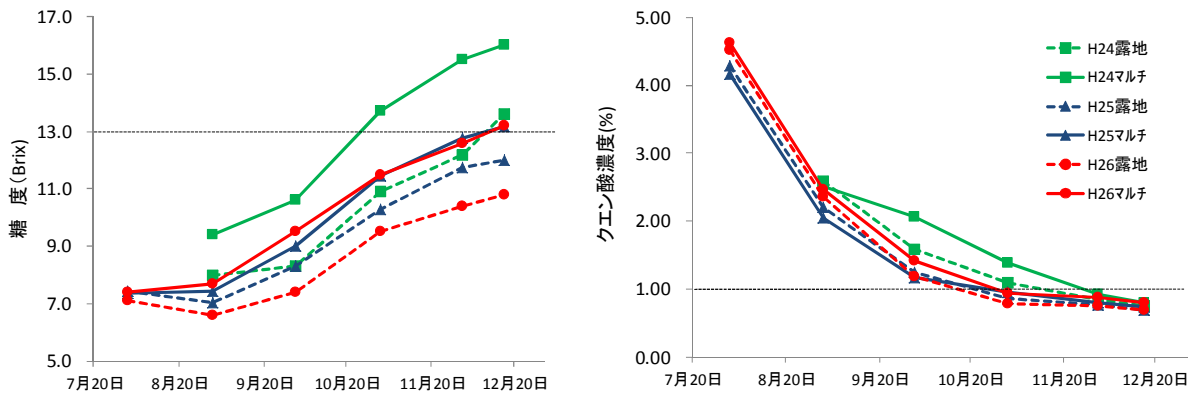


図1 「みはや」果実の糖度とクエン酸濃度の推移(平成24年, 25年, 26年)  
注1) シートマルチは3か年とも8月上旬から収穫期(12月中旬)まで

表1 果実品質の推移

処理区	9月1日			11月1日			12月15日		
	果実重	糖度 (Brix)	クエン酸濃度	果実重	糖度 (Brix)	クエン酸濃度	果実重	糖度 (Brix)	クエン酸濃度
	g		%	g		%	g		%
マルチ	87	8.2	2.34	150	12.2	1.09	172	14.1	0.78
露地	87	7.2	2.39	160	10.2	0.92	178	12.1	0.71

注1) シートマルチは3か年とも8月上旬から収穫期(12月中旬)まで  
注2) 平成24年, 25年, 26年の平均値

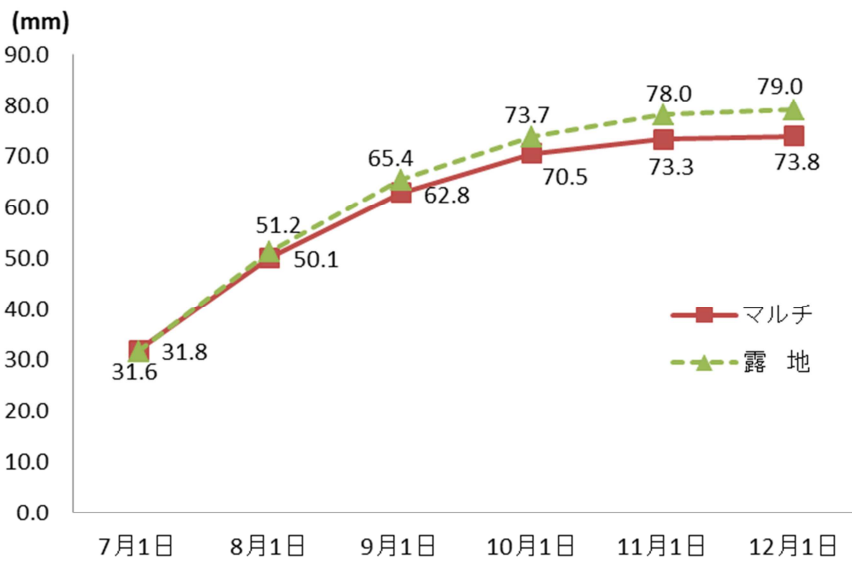


図2 果実横径の推移(平成26年)

表2 果実横径の時期別日肥大量(mm)

処理区	8月	9月	10月	11月
マルチ	0.46	0.31	0.12	0.03
露地	0.51	0.34	0.17	0.04

注1) シートマルチは2か年とも8月上旬から収穫期(12月中旬)まで  
注2) 平成25年, 26年の平均値